

南海電鉄高野山奥之院スキー場建設
予定地の埋蔵文化財分布調査

1977.7

和歌山県教育委員会
社団法人 和歌山県文化財研究会

目 次

1. 調査に至る経過	1
2. 調査範囲	1
3. 調査の方法	2
4. 調査結果	2
(1) スキー場予定地(S区)	2
(2) フィールドアスレチック予定地(F区)	3
5. 結 び	3

例 言

- 本書は、南海電鉄株式会社が伊都郡高野町大字高野山字奥の院地区に計画しているフィールドアスレチックおよびスキー場等に伴う駐車場予定地内の分布調査報告書である。
- 調査は、社団法人和歌山県文化財研究会が南海電鉄株式会社から委託を受けて昭和52年7月18～21日にかけて実施した。
- 調査に当っては南海電鉄株式会社並びに和歌山県文化財保護審議会委員巽 三郎氏の協力を得た。
- 調査は、巽 三郎氏の指導のもとに、県教育委員会文化財課技師桃野真晃、同辻林、本研究会技術員久貝 健、同西岡 巖が当たった。

1 調査に至る経過

南海電鉄株式会社が伊都郡高野町大字高野山字奥の院地区に仮称「高野山フィールドアスレチックおよび高野山スキー場」の建設を計画し、これに伴う農地転用の事前審査の申出を県に行なった。これに基づいて県農政課は、南海電鉄株式会社、株式会社浅沼組の出席のもとに関係部局に対する事前審査説明会を実施し、文化財課より文化財第2係技師松田正昭と、史跡「高野山町石 金剛峯寺境内」に隣接することから文化財保護法第80条(史跡・名勝 天然記念物に関し、その現状を変更し、又その保存に影響を及ぼす行為をしようとするとき……)に抵触することも予想されたので文化財第1係技師山本新平が出席した。

埋蔵文化財については、現在のところ周知の遺跡は認められないが、金剛峯寺境内の隣接地でもありこれに関連する遺構の存在も予想されるので別途協議したい旨回答した。

これに基づき文化財課と南海電鉄株式会社は、事業予定地内の埋蔵文化財の取扱いについて協議を行ない。南海電鉄株式会社に対し埋蔵文化財所在確認依頼の提出を求め、これによって文化財課より南海電鉄株式会社に対して本研究会との間で分布調査の事業委託契約を締結するよう指示され、これにより本研究会は「高野山奥の院地区遺跡分布調査」の事業委託契約を締結し事業を実施することになった。

2 調査範囲

今回調査の対象としたフィールドアスレチック及びスキー場建設予定地は高野山金剛峯寺の東北方にあって、高野山奥之院弘法大師廟とは転軸山をはさんでその西側にあたる。

奥の院の周辺には周知のとおり文化財が集中しており、当地にも石塔その他の高野山関係の埋蔵文化財の存在が十分予想された。

フィールドアスレチック場(F区)は転軸山の西側の谷間に約200m四方の範囲が、またスキー場(S区)はF区の南西に長さ300m、幅50~100mの細長い範囲が調査の対象である。

3 調査の方法

S区に関しては北半部の平坦地を部分的に発掘し、南半部の傾斜地は通常の分布調査を行った。F区は草木の伐採が済んでいないので全域をくまなく調査することが困難なため、踏査可能な地域を部分的に調査した。

4 調査結果

(1) スキー場予定地(S区)

(S1) スキー場南半の平坦部の中央付近に2×1mのグリッドを設け発掘した。地層は上から淡褐色泥砂が40cmの厚さで堆積し、その下は岩盤である。両層とも遺物は含まない。表土は整地のため既に削平されている。この淡褐色泥砂の上端から巾90cmの溝が切り込んでいる。深さ40cmで、溝内堆積土は暗褐色砂泥と黒褐色砂泥の二層に分けられる。遺物を全く含まないので年代は不明であるが、堆積土から推して概して最近のものと思われる。

(S2) 里道の傍らの高さ60cmの崖に地層が露出していた。約15cmの表土の下に黄褐色泥砂が40cm堆積し、その下は岩盤である。両層とも遺物はない。

(S3, S4) S1とS2の中間にS3をS1の南25mにS4を設け、1×1mのグリッドを発掘した。

地表下1mの岩盤の上に暗黄褐色泥砂、黄褐色泥砂表土の三層が、められたが、遺物は包含していない。

(S5) スキー場西南端に、現在使用している数基の墓がある。その墓に、江戸時代1683年に作られた墓石の一つを発見した。高さ50cm、幅18cm、奥行14cmを測り、「大法師良昌覚」「天和三癸亥年二月二日」「寂静院良稚弟子本願院良栄立」の銘が読まれる。恐らく付近に転っていたのを再利用したものと考えられる。付近を綿密に踏査したが江戸時代当時に墓地らしき場所は確認できなかった。すでに開墾のため削平されてしまったか、あるいは、調査範囲外にあったと思われる。

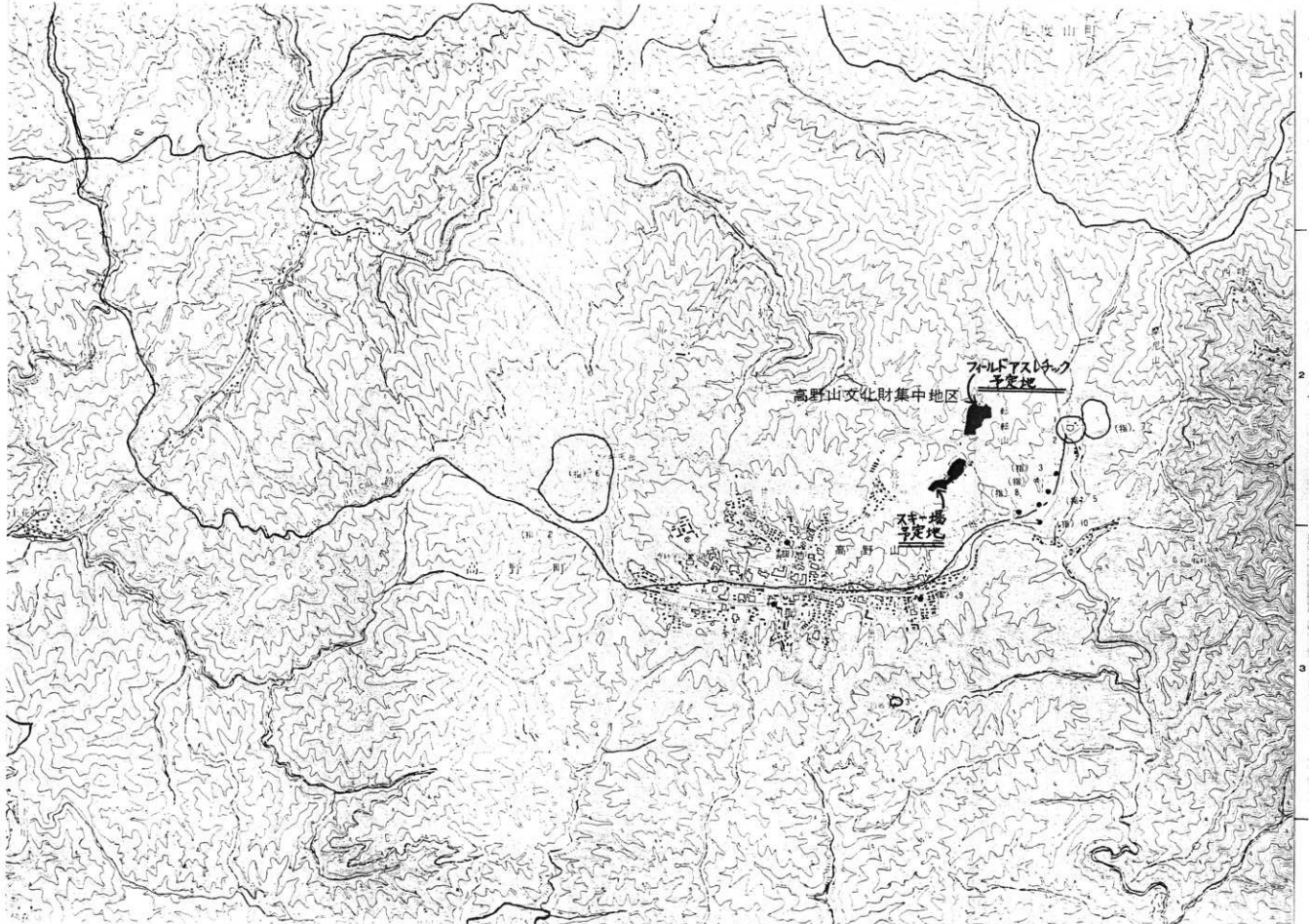
(S6, S7) 南半部2ヶ所、高まりが認められたが谷間の底であり、この部分が遺跡である可能性は低い。

(2) フィールドアスレチック予定地（F区）

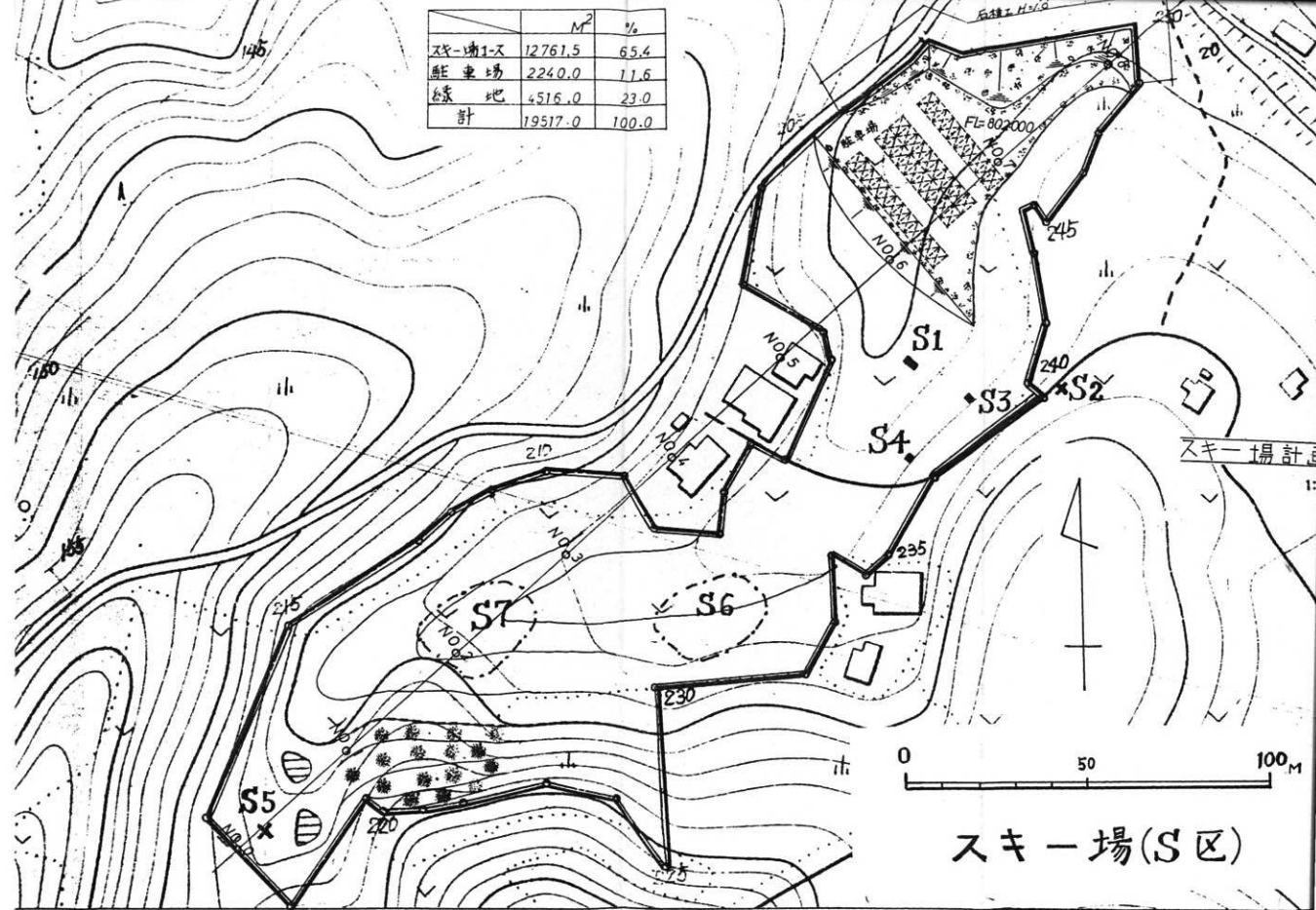
東部及び南半部は夏草が繁茂しており表面観察不可能であったため、西半と北半部を調査した。F1地点では、崖面で地層が観察されたが、遺物包含層は認められなかった。F2、F3地点の民家の石垣の中に、五輪塔の水輪、地輪の破片を発見したが、その家人に尋ねたところ、最近奥之院大師廟近くから他の石と共に運んできたものと言う。F区には遺物は散布していない。

5 結 び

調査の結果、重要な遺跡、大規模な遺構の存在は確認されず、また遺物の散布も認められなかった。しかし奥之院周辺には無数の五輪塔等の石塔が現にあり、また特にこの地区は転軸山の西麓でもあるので、高野山修験道に関連する遺構の埋蔵する可能性も多く、造成時には十分注意し、立合調査を実施する必要がある。

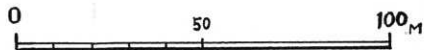


	M ²	%
スキー場1-区	12761.5	65.4
駐車場	2240.0	11.6
林地	4516.0	23.0
計	19517.0	100.0



スキー場計画

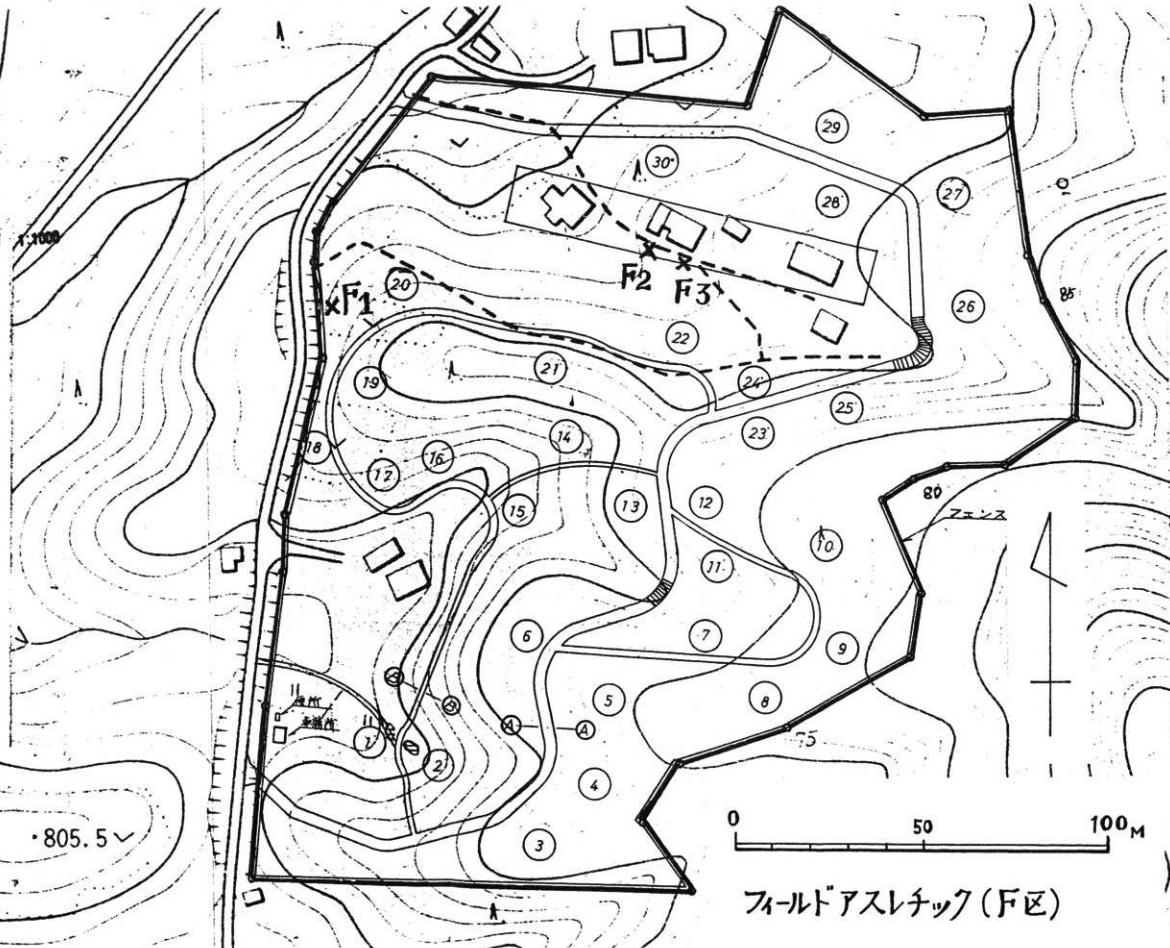
1:



スキー場(S区)

ストレッチコース計画図 1:1000

区	飛段番号
94	1.6 NO4-024
10	1.7 NO5-211
66	1.8 NO7-076
05	1.9 NO9-111
23	2.0 NO2-133
151	2.1 NO3-002
125	2.2 NO3-102
24.8	2.3 NO4-091
134	2.4 NO4-047
211	2.5 NO7-027
271	2.6 NO9-088
029	2.7 NO7-001
185	2.8 NO3-038
24	2.9 NO1-008
043	3.0 NO10-007
検	検 (検 **)
縮尺	1,000 M
数	30 ポイント
時間	サーキットコース50分



フィールドアスレチック (F区)



第1図 スキー場予定地 (S区) 全景



第2図 フィールドアスレチック予定地 (F区) 全景



第3図 グリッドS1



第4図 グリッドS3



第5図 S5 墓石 (江戸時代)